

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270201054		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームちぐさの家 1Fフロア		
所在地	千葉県千葉市花見川区千種町150-1		
自己評価作成日	平成23年1月28日	評価結果市町村受理日	平成23年3月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成23年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自分のペースで穏やかに過ごせるよう支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は入居者の尊厳を大切にされた対応をしており、暖かい雰囲気がある。また、それぞれのユニットが別々ではなく、同様のクオリティとホスピタリティを維持するべく、連携が取れている点が優れている。防災対策ほかのマニュアルは法人で作成されており、これらを含めた文書保管管理も適切に行われている。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価(1階フロア) および外部評価結果(1階・2階フロア)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、各自確認している。	法人としての基本理念や、ちぐさの家としての理念が各フロアに掲示されている。しかし、全職員で理念を共有できているとまではいえない部分がある。	基本理念は、職員の行動規範ともなるものであるため、全職員が同じように理解し、ケアする上で実践していくことが期待される。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出の際、地域住民と笑顔で挨拶したり、気軽に立ち寄って下さるように声かけをしている。	自治会主催のお祭りに参加したり、自治会会員がボランティアでホームに来訪したりと交流が盛んである。また、近隣の小学校とも良い関係があり、運動会の参観やホームでの合唱会などが行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の総合学習やボランティアの受け入れを積極的に行い、その都度説明している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での行事や日常の取り組みを報告し、地域の人々の意見を参考にして実施するよう努めている。	運営推進会議は、入居者および入居者家族の代表者、民生委員、自治会長、小学校の教頭先生、地域包括支援センター職員などが参加し、2か月に一度の割合で実施されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にあんしんケアセンターの職員に参加して頂き、連携が図れるよう努めている。	法人本部が窓口となって、市町村と連絡を取り合っている。運営推進会議には地域包括支援センター職員の参加を得ており、連携を取る様に努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束においては全職員に研修・指導している。 ・緊急、やむを得ない身体拘束等の行動制限については取扱要項に基づき実施している。	ホームとして身体拘束についての研修を実施しており、職員は禁止行為等についても理解している。やむを得ない場合についても、他に方法がないか検討するとさらに良いと思われる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で説明し、虐待防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームちぐさの家 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護について知識をもち、活用できるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について一項目ずつ説明し、確認をとっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を受入れ、ご利用者の意見を反映させている。	ご意見箱を設置したり、不定期ながらも家族会を実施するなど、入居者およびその家族の要望を取り入れようとする姿勢がうかがわれる。ホームとしてアンケートを取ることを考えている。ぜひ実施して、そこで把握した意見を運営に反映させることを期待したい。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティングにより、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 また、個々の意見を聞く機会をそれぞれ設け反映させている。	フロアミーティングは月に一回の割合で実施されており、出席率も高い。意見交換も活発で、出された意見を反映させるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話し合いの機会をもち、働きやすい職場作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修参加を奨励し、社内においては看護師や経験豊富なスタッフからトレーニングを受けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に参加し、交流や情報交換を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームちぐさの家 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居相談時、又は、ご入居時にご本人の主訴を十分に聞き、確認をとっている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に面会できる雰囲気作りと、ご家族と職員の信頼関係作りに気を配っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望を見極め、その時の状況に応じてサービスが利用できるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶を飲みながら昔話や生活の知恵の話聞き、家事等を一緒に行いながら、より良い関係を築けるように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や受診等、ご家族に協力して頂けることはお願いし、ご本人と一緒に支えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のご家族はもちろんのこと、ご友人なども気軽に面会できるよう努めている。	友人がホームを訪れたり、馴染みの店に買い物に出ることもあり、これまでの関係継続の支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係を考え、リビングでの席を決めている。又、スタッフが間に入り、ご入居者同士の間人関係がうまくいくよう調整している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームちぐさの家 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご利用者でも相談を受入れ、他の福祉施設の紹介等も行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、ご本人様のご希望を聞き、プランを作成し、フロア会議にてカンファしている。	入居者とはお茶の時間に隣に座って話しかけたり、夕食後ゆっくり会話を楽しむなどの中で希望や意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時、ご家族様・ケアマネよりの情報をスタッフ全員に共有。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は必ず管理日誌、介護記録、申し送りノートに目を通し、一人一人の状況を把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のフロア会議の中で職員全員でカンファをし、それをケアプランに反映し、ご家族に確認している。	介護計画は担当者だけでなく介護職員、週2回勤務の看護師も交え全員で話し合い、また介護日誌などで得られる情報や家族からの希望・意向なども含め検討して作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの見直しに活かせるように介護記録等を個別に記入し、必要に応じて見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に素早く対応し、施設で出来る範囲で行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームちぐさの家 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意思に応じて、地域との交流を図っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院以外にも、以前からのかかりつけ医やご家族の納得のいく医療機関での受診ができる様支援している。	本人や家族の意向を大切に受診支援している。入居者の大半は提携病院を受診しているため、利用者ごとの受診記録がすぐ分かるようになっている。また必要に応じ適切な医療が受けられるように、2週間毎に往診もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調等の変化を看護師に連絡・相談し、適切な治療が受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院では、頻繁に状態確認する為病院との連絡を密にしている。 他の病院での入院では直接伺って情報収集をする。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が重度化してきた際には、ご本人の意思やご家族の希望を尊重し、主治医と相談の上方針を決めている。	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」がある。また、状態に応じてその都度希望を確認している。	状況が変化してからではなく、早い段階から、どのようなターミナル期を過ごしたいか、意思確認がされるとさらに良いと思われる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による応急手当等の勉強会に参加し、訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと、避難訓練・消防訓練を行っている。 又、緊急連絡網を活用して協力を得られるようにしている。	2ヶ月に1回避難訓練を行い、夜間想定訓練も行われている。スプリンクラーも設置され、地元消防団に運営推進会議へ参加してもらうなど、ある程度地域との協力関係を築いている。	災害時には地域との協力体制は必須と思われるので、今後ますます連携を取っていくことが必要と思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームちぐさの家 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守り、言葉掛けや対応には十分配慮している。	入浴や排泄介助など必要に応じ同性介助とし、プライバシーの尊重を心がけている。言葉掛けや態度なども高齢者を尊重した対応をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からご本人の思いや希望を聞く機会を多く設け、出来るだけ自己決定できるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に応じて支援を心がけ、一人一人のペースに合わせた支援を心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限りご本人が望む身だしなみができる様に支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者の能力に合わせ、食事の準備、盛り付け、後片付け等を一緒に行っている。	入居者は職員と一緒に下ごしらえ、盛り付け、食器洗いなど行っている。毎月数回は全員で餃子、ハンバーグ、スイートポテトなど手作りしたり、外食するなど食事が楽しめるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の栄養士が栄養バランスの良い献立を考えて作ってくれる。 食事や水分の摂取量を毎日記録しチェックしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを促し、ご入居者の能力に応じて口腔ケアを支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームちぐさの家 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレ誘導し、トイレでの排泄を促している。	排泄チェック表によりパターンを把握して、トイレ誘導している。オムツを使わず自立している人も多く、また毎日の体操が筋力低下を防ぎ、歩いて行けるようになった人もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で出来る限り身体を動かして頂いたり、十分な水分摂取を促している。又、排泄チェック表に基づき薬剤投与を実施している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者の希望や状況に応じて出来る限り対応出来るように支援している。	希望に応じ、毎日入浴する人、1日おきの人などがいる。入浴嫌いの人にも3日に1回程度は入ってもらえるように、声かけしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や体調に気をつけ、希望に応じて休んで頂くように対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者の服用している薬の名前や効能を閲覧できるようにしており、症状によっては主治医・看護師と相談の上変更をする等対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を参考にしたり、ご本人の希望を聞きながら楽しく過ごして頂けるよう努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様のご協力も含め、できる限り買い物や散歩を実施している。毎年2回はご家族にも参加して頂いてバス旅行を実施している。	日常的に散歩や買い物に出掛けている。また希望に応じ、イルミネーション見物や花見、海を見に行くなど行っている。昨秋は家族の協力を得て柴又の帝釈天めぐりを行った。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームちぐさの家 自己評価(1階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来るご入居者には直接お金をお渡しし買い物をして頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば自由に使用して頂いている。手紙も希望があればその都度対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日掃除をして清潔を保ち、居心地の良い空間になるよう心掛けています。 又、季節感を出すように毎月カレンダーをご入居者と一緒に作り飾っている。	廊下には小学生との交流会や旅行、様々な行事の写真が飾られ、思い出を共有できるようにしている。居間はログハウス風の木の温もりを生かした作りで、日当たりも良く居心地の良い共有空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置くことで気の合う仲間と会話を楽しんだり、一緒にTVを見たりする場所を提供している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具をお持ちいただき、ご自宅と同じように過ごしていただけるようにしている。	基本的にテレビ・タンス・鏡台など、自宅で使い慣れた物を持って来ている。写真や手作りの手芸品など飾ったり、仏壇を置いたり、自宅のように過ごせるよう、支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置により安全を確保しつつ、家庭的な雰囲気への造りになっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所